



幸樹

こう じゅ

第78号

2021年9月1日



ホームページ



職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



月と茸と兎』

絵・高橋 聖大

春木川では
うなぎが
たくさん捕れたよ



飯沼仁助さんにお聞きしました

飯沼仁助さん（86歳）は、今も住んでいる河原塚の家で6人兄弟の二男として生まれ育ちました。

さんしょうでは、よく将棋をされています。強くはなかったけど子供の頃みんなが集まって涼しい木陰でやっていたそうです。ここ2〜30年やっていなかったが、さんしょうに通い、また将棋をやるようになりました。

子供の頃の春木川はきれいで、江戸川から上って来たうなぎがたくさん捕れたそうです。農家の方が野菜を洗ったり、生物も沢山いて子供たちの遊び場でした。

一人親方から、建設工事会社を起こす

地元の東部小学校を卒業後、中学校には行かず働き始め、農業の手伝いをしながら家の基礎工事するようになり、一人親方から建設工事会社を始めたそうです。紹介で知り合い結婚した奥さんが経理をしてくれました。住宅ブームの時代だったので、忙しくも楽しかったし儲かったと話します。「セドリック3台新車で買った」「奥さんは運転しなかったけど、たくさん旅行に行った。フェリーも乗ってどこまでも行ったよ」と、嬉しそうに話されます。

仁助さんは、野菜や庭木を育てるのが得意です。私たちが訪問に伺うと、庭にいらっしゃることも多く、「今日は木の枝下ろしをしていたんだよ」と、草木のことをよく教えてくださいます。幸樹会の裏庭で採れた大きくなりすぎたキュウリや硬くなった茄子などをお見せすると「よくできたじゃないか」と優しく声をかけてく

れます。素人の私たちの作物を否定せず「よかったね」と言ってくれるところが仁助さんの優しさです。

（聞き手・介護福祉士 宮田敬子）



今年の夏まつりは、8月17日にさんしょうのご利用者と職員のみで規模を縮小し開催いたしました。

前日までは小規模ながら夏を感じていただけるよう、屋台の食事や盆踊り、浴衣の着付けなどを企画していましたが、松戸市でも新型コロナウイルス感染者数が増加しているため、夏まつり風な飾り付け・短冊づくり・お弁当のみとなりました。

お弁当は近隣の日本料理店の「松戸野遊び弁当」をお願いいたしました。彩り華やかな素敵なお弁当に皆さま笑顔が見られ、いつもよりよく召し上がられていらっしゃいました（写真）。

例年のにぎやかな夏まつりのようにいかなる残念ではありましたが、普段と違う雰囲気皆さま気分転換ができたのではと思います。（介護福祉士・野崎圭介）

看多機さんしょうの見学研修の感想

千葉健愛会あおぞら診療所で在宅医療研修をされている研修医の方が、さんしょうを見学研修をされ、感想をいただきましたので、ご紹介いたします。

■変化に対応するケアができる良い選択枝

松戸市立総合医療センター所属

初期研修医2年目 菅原ゆたか

実際に看多機でのサービスを見せていただき、小規模だからこそできるきめ細やかで個々のニーズに対応した心配りを端々に感じました。私は腫瘍内科医志望でがん末期の患者さんと関わる機会が多くありました。訪問・通所・宿泊といったサービスを自由に組み合わせて使える看多機は体調の経時的な変化があり必要とされるケアが流動的ながん末期の患者さんにはとても良い選択枝であると感じます。

昨今、国策として病床数の削減と在宅への転換が進められています。在宅医療は住み慣れた地域で自由に過ごすことができる反面、病棟とは違いスタッフが常駐し

ているわけではないので、どうしても本人や家族の医療介護のケアの負担が大きくなりがちです。そこをサポートし小規模ながら個別的なサービスで自分らしい生活を送れるよう手助けする看多機の重要性はこれから益々認識されてくると思います。

私自身もこれから地域医療・在宅医療において何ができるかを模索し精進して参ります。貴重な機会をいただきましてありがとうございました。

新任管理者の紹介です

幸樹会では7～8月に人事異動を行いました。新任の管理者を紹介させていただきます。

からたち薬局管理薬剤師（薬局長） 松下 泰樹

ここ数年で薬局・薬剤師の仕事は対物業務から対人業務へと大きく変化しています。『手』だけ、『頭』だけで仕事をする薬局ではなく、相手の気持ちになり『こころ』を使って仕事ができる薬局作りをしていきたいと思っています。職責者としてはまだまだ力不足ですが、皆様方のお力添えを頂きながら幸樹会の事業を実りあるものにしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



あんず訪問看護ステーション管理者（所長） 石原 貴子

所長を拝命しましたが、半年前は想像もしていなかった展開となり、非常に困惑いたしました。しかし、意を決してお受けすることになりました。在宅医療・訪問看護については新参者でございますが、勉強しながら努めてまいりますのでご指導のほどよろしくお願いいたします。



私は、今年3月まで都内の大学の研究所で、悲嘆や喪失感を抱えている方に寄り添うケアを学んでいました。それを看護に活かし看護師人生のまとめをしつつ、さらに学びを深めるつもりでした。この現実を受け入れ学んだケアを活かし、微力ではありますが尽力していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう

管理者（所長） 南雲 朋子

幸樹会に入職してから早5年、子供がまだ小さいので、若いと思われがちですが、看護師になり既に25年以上経ってしまいました。

看多機の機能を活かして、皆様の『在宅で自由に暮らしたい』という思いを強力にサポートしていきたい

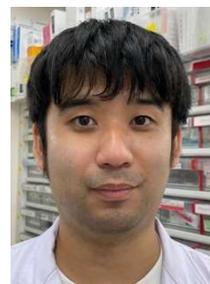


と思います。ご利用者・ご家族だけでなく、地域に根付いた温かく安心感を与えられるような施設であり続けられるよう、職員ともに切磋琢磨しながら、日々精進していく所存です。皆様のお力添え、今後ともよろしくお願いいたします。

新入職員の紹介

薬剤師 桐山 章宏

前職では、サービス付き高齢者向けの住宅の在宅医療も経験してきました。からたち薬局でも幸樹会の他部署と連携して地域の住民の皆様にも適切な医療を提供できるよう努力していきたいと思っています。また外来で来局されるさまざまな疾患の患者様に対しても丁寧な対応を心がけていきたいと思っています。これからよろしくお願いいたします。



作業療法士のこころ

あんず訪問看護ステーション・作業療法士 周藤 俊彦

幸樹会に務めてもうすぐ2年が経とうとしています。今まで病院勤務の経験しかなかった私にとっては、幸樹会が初めての地域医療、在宅支援の経験でした。

初めは驚きの連続だったことを、今でもはっきりと覚えています。自分の家で生活したいという強い気持ちで、転倒を繰り返しながらも一所懸命に自宅で生活されている方、段差や階段の昇り降りができないため這って移動されている方、教科書には決して載っていないような工夫をして生活されている様々な場面を目にして、リハビリ専門職としての視野の狭さを痛感しました。

教科書では学べない魅力

リハビリでは「姿勢を正して背筋を伸ばして下さい」等とよく言ったりしますが、病気や障害に負けず、諦めない姿勢でリハビリに取り組む姿を見ると、私自身の背筋が伸びる思いもあったりします。



利用者、家族の皆様との関わり、様々な経験から、日々作業療法士としてだけではなく、一人の人間としても育てて頂いていると感じています。これからも自分自身の成長や研鑽を重ねながら、地域の皆さんへの支援、恩返しを行っていききたいと思っています。



デンマーク便り...③⑦

ラスムッセン 京子

デンマークでは日常生活が戻ってきました。予防注射のワクチン接種が進み、12-15歳の子供たちもワクチン接種の対象になっています。

新型コロナウイルス Covid-19 は、9月10日よりデンマークで社会的に重要な疾患とみなされなくなります。その判断について、マグナス・ホイニッケ保健大臣は「急ピッチで記録的なワクチンの摂取が進み、流行がコントロールされていることによるものだ」と、言います。昨年3月11日から実施された18ヶ月間の地域封鎖や社会的規制が終了します。

日常生活が戻ってきました



政府は、「今は良い状態ではありますが、流行からは脱していません。パンデミックが私たちの社会の重要な機能を再び脅かすことになれば、躊躇なく迅速に行動します」としています。マグナス・ホイニッケ保健大臣はツイッターで、「私たちは、強力な疫病監視、検査、下水検査などを継続し、効果的なワクチン接種を展開し、必要に応じ介入する準備を整えています」とも書いています。

この間、政府は野党の多数からの政治的圧力を受けていました。とりわけ、特定の地域封鎖についての批判が強く、3日前に公営放送の取材に応じた保守党の保健担当スポークスマン、パー・ラーセン氏は、「地域封鎖は、多くの人々にとって非常に不幸な結果をもたらしているので、できるだけ早く廃止すべきだと思います」と、語っています。

デンマークの多くの政治家たちは、covid-19がもはや社会全体を脅かすものではないと考えています。covid-19が社会的に重要な対策を必要とする感染症として分類されなくなるということは、パンデミックの際に政治家や当局が導入した特別なルールの根拠がなくなることの意味です。しかし、流行を監視するためのいくつかの対策は継続されるとしています。

千羽鶴づくりはじめる

1945年8月、2発の原爆が広島、長崎に落とされました。死者の数が正確にわかっていないほど多くの人が亡くなり、未だに放射能による健康被害に苦しむ方が多くいます。

唯一の被爆国として、原爆の恐ろしさを風化させず、再び繰り返さぬよう唯一の被爆国である我々が声を上げ続ける必要があると思います。

幸樹会では今年の8月から来年の8月に向けて、利用者、職員一丸となって千羽鶴を折っています。一羽一羽に思いを込めて1年間取り組んでいきたいと思っています。

(本部・中野夏希)



加藤洋子職員(右)が折り紙指導

ツバメさん、南へ

ツバメの巣は、薬局入口とさんしょう入口の2カ所につくられました。ところが、薬局側の巣が自然落下したのか、カラスに落とされたのか、なくなってしまいました。親ツバメは、それにもめげず、再び巣作りし、ヒナを育てました。少し遅れましたが、8月中旬ごろ、ツバメたちは無事に南に飛び立ちました。



八柱学習会

▼次回学習会予定(「定例日: 毎月第3金曜日」)

9月17日(金) 18:30~、

あつまーれ幸樹

「地域ケアの変遷と未来」

1975~2020の時代体験と実践から語る③

お話・武井幸穂氏

【参加自由】

今月の屋上太陽光発電量は、

949KWh



幸樹会館電力使用量 4616KWh 自給率 20.56%

職員募集! 非営利・働きがいある職場

看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり
問い合わせ: 本部中野まで、☎047-701-7550